

05

各課目のガイドライン  
専門研修課程Ⅱ



---

## 5 各課目のガイドライン 専門研修課程Ⅱ

①介護支援専門員特別講義	217
②サービス担当者会議演習	223
③介護支援専門員の課題	231
④「居宅介護支援」事例研究	239
⑤「居宅介護支援」演習	247
⑥「施設介護支援」事例研究	255
⑦「施設介護支援」演習	263



Ⅱ-1

## 介護支援専門員特別講義

講義2.0時間

### ① 目的

・ ケアマネジメントに対する理解・認識を深める。

### ② 内容

・ (例) 「ケアマネジメント実践報告会」「介護支援専門員業務自己評価手法を学ぶ」「苦情と事業者指導の方法」「障害者ケアマネジメント」「高齢消費者被害の最近の事例」等ケアマネジメントと介護支援専門員をめぐるトピックな課題等を学ぶ。

### ③ 研修体系における本課目の位置づけ

・ 介護支援専門員の特別講義は、専門課程Ⅱにのみに位置付けられている。

実務研修	独立した課目なし
実務従事者 基礎研修	独立した課目なし
専門研修 課程Ⅰ	独立した課目なし 介護保険制度論(講義2.0時間)の中で全般にわたるトピック的な話題の講義として学習
専門研修 課程Ⅱ	介護支援専門員特別講義(講義2.0時間)でケアマネジメントに対する理解・認識を深めるために介護支援専門員をめぐるトピックな課題等を学習
主任介護支援 専門員研修	独立した課目なし 主任介護支援専門員の役割と視点(地域包括支援センターの運営を含む)(講義5.0時間)の中で必要な知識として学習

#### ④ 到達目標

- ・本課目を講義した際に到達する目標を以下に示す。

##### 到達目標

- ・介護支援専門員が日常的な業務の中で社会情勢や環境に目を向け、自ら考える力をつけながら適切にケアマネジメントができるように知識・技術・態度を習得する。

#### ⑤ 指導の視点

- ・本課目の講義を行う際の、指導の視点を以下に示す。

##### 総括

- ・地域の現状や介護支援専門員をめぐる課題について、自ら関心を持ち考え、適切に対応できる力を育てることを念頭に置く。
- ・話題性に捉われずに介護支援専門員を巡る課題であることを認識すること。
- ・どのような形で業務と関係するのか理解すること。

# memo

## ⑥ 具体的習得目標と方法

・本課程で具体的に習得する目標を5項目挙げ、各項目が該当するスキル（知識・技術・態度）と講義方法を示す。

具体的習得目標	習得分野	方法
1 介護支援専門員をめぐるトピックな課題等について気づける。	知識 技術 態度	・講義・演習
2 ケアマネジメントと介護支援専門員をめぐる課題について情報収集できる。	知識 技術 態度	・講義・演習
3 各自の実践における問題点と介護支援専門員をめぐる課題との関係性を説明できる。	知識 技術 態度	・講義
4 事業所内において各自の実践において、業務の改善の方向性や方法を検討できる。	知識 技術 態度	・講義・演習
5 介護支援専門員をめぐる課題を事業所や地域で説明できる。	知識 技術 態度	・講義



## ⑦ 講義等の具体例

・本課目を実施する際の進行の例を以下に示す。

プログラム	時間	具体的方法
1 事前チェック 導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の予定。</li> <li>・行動目標の意味するところを説明する。</li> </ul>
2 グループワーク	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿ってこれまでに経験したことや内容を受講者間でも話し合う。</li> <li>・話が出ないようであれば、関心のあることや聞きたいことについて討論をする。</li> <li>・講義でも取り上げるなどの方法も活用する。</li> </ul>
3 講義	70分	
4 振り返り	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修記録シートを記入する。</li> <li>・相互評価する。</li> </ul>

## ⑧ 評価

- ・本課目を実施する際の評価のポイントを以下に示す。

### 評価ポイント

- ・内容が多岐にわたるので話題性や必要性などの視点を持つこと。
- ・まずは日常業務の中で社会情勢や周囲環境などに気づけることを重視する。
- ・テーマに適した講師の選定を行うこと。

評価の区分	評価方法
1 受講者の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義日までに地域の基本情報を確認しておく。</li> <li>・講義当日、研修記録シート2を基に受講者相互の情報交換を行うことで、地域特性などの理解を深める。</li> <li>・講義の前にチェックリストにより自己評価をする。</li> <li>・今後の業務における自己課題を明確にする。</li> </ul>
2 受講者の相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入した研修記録シート2を相互にチェックする。</li> <li>・チェック後に本人に返却する。</li> </ul>
3 講師の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の理解が不十分な部分を再度講義する。</li> <li>・受講者の一部の研修記録シート2を講師が目を通し、研修で改善すべき点を把握する。</li> </ul>

Ⅱ-2

サービス担当者会議演習

演習3.0時間

### ① 目的

- ・ サービス担当者会議の運営方法、職種間の連携方法に習熟する。

### ② 内容

- ・ 複数の職種の参加を得て、模擬サービス担当者会議を行い、自己・相互評価を通して効果的な会議運営方法とチームケアの方法を学ぶ。

### ③ 研修体系における本課目の位置づけ

- ・ 利用者に関わる専門職、サービス提供事業者等と合意形成していくための重要な場である事を説明でき、活動できる。
- ・ 介護支援専門員の「サービス担当者会議」に関することは、次のような関連科目で研修設定されている。
- ・ 困難事例を含む多様な課題を抽出し、各機関の機能を理解した上で専門職の役割・機能を理解し活用できる。
- ・ 実務従事者基礎研修、専門研修課程Ⅰにおいても運営方法を学んでいるが、困難事例等の解決方法について、検討ができ、地域との連携ができる。
- ・ 支援方針を決定するための手法を理解する。

実務研修	「チームアプローチ演習」(演習3.0時間)
実務従事者 基礎研修	独立した科目なし 「ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方」(講義7.0時間)の一部で、サービス担当者会議の意義と重要性について講義
専門研修 課程Ⅰ	独立した科目なし 「ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方」(講義3.0時間)の一部で、サービス担当者会議の意義と重要性について講義
専門研修 課程Ⅱ	「サービス担当者会議演習」(演習3.0時間)
主任介護支援 専門員研修	主任介護支援専門員の役割と視点(地域包括支援センターの運営を含む)(講義5.0時間)の中で、地域としてのサービス担当者会議に関する支援(地域システム・地域課題)等について一部講義

#### ④ 到達目標

・本課目を講義した際に到達する目標を以下に示す。

##### 到達目標

- ・開催の目的が理解できる。
- ・サービス担当者会議の開催時期が理解できる(運営基準も含む)。
- ・サービス担当者会議開催の準備から実施・開催後の一連の流れを熟知でき、客観的な自己評価ができる。
- ・チームの一員としてまたコーディネーターの要として、客観的にチーム評価ができる。

## ⑤ 指導の視点

- ・本課目の講義を行う際の、指導の視点を以下に示す。

### 総括

- ・講義、演習を適切に運用できるように、事例の紹介、DVD等の活用で開催の実施内容を場面ごとに確認する。
- ・記録のまとめ方、開催の調整等の必要性を理解する。
- ・現状の開催状況を振り返り、各受講者から開催にかかる準備・当日の進行方法・事後対応など気づきを得る。
- ・適正に運用するためには、各種方法を活用する。
- ・グループ人数は最大8名とする。

### 能力1 アセスメント能力

- ・サービス担当者会議の開催時期、目的を理解する。
- ・どのような職種の参加が望ましいか理解する
- ・サービス担当者会議の目的と連携の必要性を理解し活動する。
- ・利用者の状態に合わせて医療の必要性をチームでアセスメントする。

### 能力3 カンファレンス・コーディネート能力

- ・目的に沿ったサービス担当者会議を開催し、効果的な運営を行う。
- ・会議において介護支援専門員の役割(進行・代弁機能等)を行う。
- ・抽出した課題解決に向けて専門職から助言を受ける会議を開催する。

### 能力2 プランニング能力

- ・サービス担当者会議開催に向けて必要な調整を行い開催計画を立てる。
- ・課題に対する適切な時期とメンバー(医師を含む)により会議を開催する。

### 能力4 モニタリング能力

- ・開催後、記録として整理し、伝達する。
- ・ケアプラン等の情報を医師を含む関係職種に提供する。
- ・残された課題と次回開催時期を明確にする。

## ⑥ 具体的習得目標と方法

・本課目で具体的に習得する目標を5項目挙げ、各項目が該当するスキル（知識・技術・態度）と講義方法を示す。

具体的習得目標	習得分野	伝達方法
1 運営基準におけるサービス担当者会議の位置づけを説明できる。	知識 技術 態度	・簡潔な講義 ・他の課目でも学習
2 多様な事例に対して、効果的にサービス担当者会議を開催できる。	知識 技術 態度	・演習
3 多職種と連携し、当該利用者・家族をチームケアで支援できる。	知識 技術 態度	・演習
4 利用者・家族を中心とした地域ネットワークの構築できる。	知識 技術 態度	・講義
5 サービス担当者会議運営を困難にしている課題を抽出し、解決方法を検討できる。	知識 技術 態度	・講義・演習

## ⑦ 伝達内容

・本課目で定める具体的習得目標を伝達する際の指導内容、解説を以下に示す。

指導内容	解説(読み解き)	教材・レジュメ 事例の作成・選択指針
1 運営基準におけるサービス担当者会議の位置づけを説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス担当者会議を開催する場所、設定や開催内容についての違いについてDVD等により確認し、ポイントについて意見交換する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVD事例の指針(困難事例や利用者と家族の意向が異なる事例など)</li> <li>※DVDの利用については固有名詞が出ないもので対応</li> </ul>
2 効果的なサービス担当者会議の企画運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順や方法についてもわかりやすく講義とDVD等を活用する。</li> <li>・事業所内での研修伝達等を行うことで、より学び深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な流れをプロセス運営基準に沿って伝達(DVD等)</li> </ul>
3 利用者・家族を中心としたサービス担当者会議を開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習で意見交換を行い、課題抽出をし、各グループでの課題解決方法について演習でまとめるときに、開催における利用者との準備や課題についても意識するように演習する(演習方法例: KJ法等)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な課題に気づくためのKJ法の活用</li> </ul>
4 利用者・家族を中心とした地域ネットワークを構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営上の法令遵守についても提示し講義する。</li> <li>・開催目的の確認を行うために、自己評価を活用し個人ワークを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自覚の促し</li> </ul>
5 サービス担当者会議運営を困難にしている課題を抽出し、解決方法を検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習で意見交換を行い、課題抽出をし、各グループでの課題解決方法について演習する(演習方法例: ロールプレイ、KJ法等)。</li> <li>・グループでの発表を行い、全体での気づきや情報提供の場を設定する。</li> <li>・サービス担当者会議を開催する場所設定や開催内容についての違いについて振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄り事例の吟味と意見交換の促進を図る</li> <li>・サービス担当者会議における地域課題に視点の演習を行い改善計画を作成す</li> <li>・会議の目的に沿った関係者の調整を行う事を促進させる</li> </ul>

## ⑧ 講義等の具体例

- ・本課目を実施する際の進行の例を以下に示す。

この課目は研修での位置づけとして他の研修の実務研修・専門研修課程Ⅰで一部研修を行っている。模擬等を行い体験することで、サービス担当者会議を開催する意義を理解する。下記の例示を参考にして180分の演習を行う。

### 例示 1

- ・ロールプレイを実施(A:見本事例を提示し役割を演じる、B:持ち寄り事例を精査し、役割を演じる)し、サービス担当者会議でのコミュニケーション技術能力を理解する。

### 例示 2

- ・DVD等の活用により基本的なポイントを視覚的にシミュレーションして振り返り、地域で行うサービス担当者会議の課題を抽出する。(KJ法・ブレインストーミング活用等)
- ・対応方法等の解決策をグループワークで見出すことで、地域での課題・サービス担当者会議を行う技術等を理解する。

### 例示 3

- ・サービス担当者会議を開催するに当たっての明確な地域の課題を抽出し、その対応策について、準備・実施・事後対応等についての方法をグループワークで明確化し理解する。



## ⑨ 評価

・本課目を実施する際の評価のポイントを以下に示す。

### 評価ポイント

適切な利用者像の変化・運営基準順守に応じてサービス担当者会議を開催し、事前事後の対応ができる。

評価の区分	評価方法
1 受講者の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義日までに地域の基本情報を確認しておく。</li> <li>・講義当日、研修記録シート2を基に受講者相互の情報交換を行うことで、地域特性などの理解を深める。 →「わがまち」の理解が深まったかを自己評価する。</li> <li>・講義の前にチェックリストにより自己評価をする。</li> <li>・今後の業務における自己課題を明確にする。</li> </ul>
2 受講者の相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入した研修記録シート2を相互にチェックする。</li> <li>・チェック後に本人に返却する。</li> </ul>
3 講師の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の理解が不十分な部分を再度講義する。</li> <li>・受講者の一部の研修記録シート2を講師が目を通し、研修で改善すべき点を把握する。</li> </ul>



Ⅱ-3

介護支援専門員の課題

講義3.0時間

### ① 目的

- ・介護サービスとケアマネジメントの課題を踏まえ、介護支援専門員の基本姿勢を再確認する。

### ② 内容

- ・介護保険制度や介護サービスをめぐる諸課題及び介護支援専門員の基本姿勢・役割等について講義。あわせて、介護保険制度の理念に沿って、居宅サービス計画、施設サービス計画を作成し、サービスを提供するという目的に立ち返り、経験の振り返りを促進する。また、専門研修Ⅰで学んだ利用者主体等の介護支援専門員の倫理についても再確認を行う。

### ③ 研修体系における本課目の位置づけ

- ・各研修課目を通して、関連内容の講義・および演習が一部設定されている。

実務研修	介護保険制度の理念と介護支援専門員(講義3.0時間) チームアプローチ演習(演習3.0時間)
実務従事者 基礎研修	ケアマネジメントとそれを担う介護支援専門員の倫理(講義3.0時間) ケアマネジメント点検演習(演習14.0時間) 研修を振り返っての意見交換、ネットワークづくり(演習3.0時間)
専門研修 課程Ⅰ	ケアマネジメントとそれを担う介護支援専門員の倫理(講義1.0時間)
専門研修 課程Ⅱ	介護支援専門員の課題(講義3.0時間)
主任介護支援 専門員研修	ケアマネジメントとそれを担う介護支援専門員の倫理(講義3.0時間)

#### ④ 到達目標

・本課目を講義した際に到達する目標を以下に示す。

##### 到達目標

- ・介護支援専門員の社会的役割と期待について理解し、活動する。
- ・利用者の置かれている生活実態から制度的な課題について説明できる。
- ・介護支援専門員として倫理的な活動に関して自己を振り返ることができる。
- ・意欲を高める支援の在り方を理解し活動する。
- ・多種職連携・協働の必要性和利用者の生活の継続性について理解し活動する。
- ・介護支援専門員の職場内・外のスキルアップについて理解し活動する。

## ⑤ 指導の視点

- ・本課目の講義を行う際の、指導の視点を以下に示す。

### 総括

- ・現状の介護保険制度や介護サービスをめぐる課題と関連付けて講義
- ・介護支援専門員の活動を通して、現状を知ることによって経験の幅が広がるように、事例を通して講義。
- ・地域包括ケアにおける主任介護支援専門員の役割について理解し活用・協働する講義。
- ・介護支援専門員としての倫理について再度振り返りの機会を提供し重要性を講義。

能力  
1

### アセスメント能力

- ・制度内容と介護保険の概念を関連付けて説明ができる。
- ・制度の枠組みと高齢者の生活への影響を理解できる。

能力  
3

### カンファレンス・コーディネート能力

- ・多種職協働の意義・連携により権限等について明確に提示を行い、調整連携が図れることを理解できる。

能力  
2

### プランニング能力

- ・事例を通して、また社会的な高齢者の立場を通して、現状の運営についての課題も含めた理解をする。
- ・自助・公助のバランスが保てるケアプランが作成できる。

能力  
4

### モニタリング能力

- ・今後の介護支援専門員としての課題を、社会状況を踏まえた中で理解できる。
- ・高齢者の意識調査等を通して現状の制度の課題について理解できる。

## ⑥ 具体的修得目標と方法

・本課題で具体的に修得する目標を7項目挙げ、各項目が該当するスキル（知識・技術・態度）と講義方法を示す。

具体的修得目標	修得分野	伝達方法
1 現行の制度と関連付け、現状の課題を認識し活動する	知識 技術 態度	・講義
2 課題解決のための対処方法などを介護保険制度開始から関連付けを説明できる。	知識 技術 態度	・講義
3 地域情報を入手する方法を説明できる。	知識 技術 態度	・講義
4 定期的にケアマネジメントプロセスに沿って行動を振り返る。	知識 技術 態度	・講義
5 定期的に運営上の改定や通知に関して確認・解釈ができる。	知識 技術 態度	・講義
6 地域での事業者の集まりに参加し、意見交換できる。	知識 技術 態度	・講義
7 倫理的ジレンマを克服し活動できる。	知識 技術 態度	・講義

## ⑦ 伝達内容例

・本課目で定める具体的修得目標を伝達する際の指導内容、解説を以下に示す。

指導内容	解説(読み解き)	教材・レジュメ 事例の作成・選択指針
1 現行制度と関連付けた現状の課題を認識して対応を説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の保健福祉計画や、社会全体の高齢者に関する施策等をとらえて講義する。</li> <li>・介護支援専門員の活動の中での課題についての共通事項を、生活課題の多い事例を通して講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材</li> <li>・厚生労働省資料</li> <li>・内閣府資料</li> </ul>
2 課題解決のための対処方法などを介護保険制度開始から関連付けた説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者における社会的な課題についての提示とその支援に向けての介護支援専門員の役割を講義する。</li> <li>・保健福祉計画の中での介護の位置づけや方向性について講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材</li> <li>・厚生労働省資料</li> <li>・内閣府資料</li> </ul>
3 地域情報の入手方法の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報入手の方法について講義する。</li> <li>・地域での取り組みの紹介・活動についても講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材</li> <li>・厚生労働省資料</li> <li>・内閣府資料</li> </ul>
4 定期的なケアマネジメントプロセスに沿った行動の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内での研修の実施促進について講義する。</li> <li>・事業所内での研修実施計画等についても促進できる講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材</li> <li>・厚生労働省資料</li> <li>・内閣府資料</li> </ul>
5 定期的な運営上の改定や通知の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険者等の連絡や情報の伝達方法について講義する。</li> <li>・地域のネットワークづくりを講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材</li> <li>・厚生労働省資料</li> <li>・内閣府資料</li> </ul>
6 地域での事業者の集まりへの参加、意見交換の実施促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者から具体的な活動内容についての意見を話す機会を作り、講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材</li> <li>・厚生労働省資料</li> <li>・内閣府資料</li> </ul>
7 倫理的ジレンマを克服し活動を促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・克服するためのプロセスなどを提示しながら講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材</li> <li>・厚生労働省資料</li> <li>・内閣府資料</li> </ul>

## ⑧ 講義等の具体例

・本課目を実施する際の進行の例を以下に示す。

プログラム	時間	具体的方法
講義	50分	・介護支援専門員の倫理
	70分	・利用者意欲を高める支援の講義 ・多職種協働・連携の促進の講義 ・生活の継続性などを理解できる事例を通して講義
	60分	・職場内における介護支援専門員のスキルアップについての講義(OJT)



## ⑨ 評価

- ・本課題を実施する際の評価のポイントを以下に示す。

### 評価ポイント

- ・制度理解ができ高齢者の生活に制度が影響しているかを理解しケアプラン作成ができる。
- ・情報収集と高齢者像を意識しながら個別支援に展開できる。
- ・職場内での教育や指導に関しても興味をもて、その役割を果たせる。

評価の区分	評価方法
1 受講者の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義日までに地域の基本情報を確認しておく。</li> <li>・講義当日、研修記録シート2を基に受講者相互の情報交換を行うことで、地域特性などの理解を深める。 →「わがまち」の理解が深まったかを自己評価する。</li> <li>・講義の前にチェックリストにより自己評価をする。</li> <li>・今後の業務における自己課題を明確にする。</li> </ul>
2 受講者の相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入した研修記録シート2を相互にチェックする。</li> <li>・チェック後に本人に返却する。</li> </ul>
3 講師の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の理解が不十分な部分を再度講義する。</li> <li>・受講者の一部の研修記録シート2を講師が目を通し、研修で改善すべき点を把握する。</li> </ul>



Ⅱ-4

「居宅介護支援」事例研究

講義6.0時間

① 目的

- ・ 自立支援、利用者本位の観点に基づく居宅サービス計画作成の視点・方法を学ぶ。

② 内容

- ・ 自立支援、利用者本位の観点から作成された居宅サービス計画の事例を取り上げ、それらがどのようなプロセスを経て作成されたのか、具体的なアセスメントの手法、サービスの活用方法、関係機関との連携手法、各個別サービス計画との関係等を学ぶ。

③ 研修体系における本課目の位置づけ

- ・ 介護支援専門員の「居宅介護支援 事例研究」に関しては次のような課目で研修することとなっている。

実務研修	アセスメント・ニーズの把握方法(講義2.0時間) 居宅サービス計画等の作成(講義2.0時間) 実習オリエンテーション(講義1.0時間) モニタリングの方法(講義2.0時間)
実務従事者 基礎研修	「ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方」(講義7.0時間) 「ケアマネジメント点検演習」(演習14.0時間) 「ケアマネジメント演習講評」(講義6.0時間)においては、事例を使った演習結果をもとに各プロセスを再認識し、実践を省みて課題と改善方策を見出す。
専門研修 課程Ⅰ	独立した課目なし 「ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方」(講義3.0時間)でプロセスの持つ意味と重要性について実際の事例を使って講義
専門研修 課程Ⅱ	「居宅介護支援 事例研究」(講義6.0時間)
主任介護支援 専門員研修	「事例研究及び事例指導方法」(講義5.0時間、演習18.0時間)で単に事例研究を行うだけでなく、指導、説明できる技能を会得する。

#### ④ 到達目標

・本課目を講義した際に到達する目標を以下に示す。

##### 到達目標

- ・福祉や介護、看護、保健医療などを総合的に展開していく個別援助の在り方。
- ・常に検討できる方法や技術を持つ。
- ・専門的判断、分析力を高めて課題を克服する。
- ・援助過程の説明や情報開示、サービス決定に対する説明請求に対しても対応する力量を備える。

## ⑤ 指導の視点

- ・本課目の講義を行う際の、指導の視点を以下に示す。

### 総括

- ・多様な視点から、仮説と検証を重ね、意見交換を行う。
- ・自立支援、利用者本位の観点から作成された居宅サービス計画書を確認する。
- ・事例検討を行うことにより、多面的な検討を通してレベルアップの材料を見出していく。

### 能力1 アセスメント能力

- ・自立支援、利用者本位の観点からのアセスメント。
- ・利用者の尊厳を保持し、解決すべき課題(ニーズ)を具体的に明らかにし、合意を得る。

### 能力3 カンファレンス・コーディネート能力

- ・利用者の望む暮らしに向けた目標達成のために効果的なチームアプローチができる。
- ・各職種間で目標の共有と役割分担が出来、チームとして機能させる。

### 能力2 プランニング能力

- ・利用者の自立して尊厳のある日常生活に何が必要か、どのように暮らしていけばよいか具体的に示されたケアプランを作成できる。

### 能力4 モニタリング能力

- ・自立支援、利用者本位の観点に基づいた支援となっているか、目標の到達度をモニタリングできる。

## ⑥ 具体的習得目標と方法

・本課目で具体的に習得する目標を10項目挙げ、各項目が該当するスキル（知識・技術・態度）と講義方法を示す。

具体的習得目標	習得分野	方法
1 自立支援、利用者本位の理念に基づく居宅サービス計画作成のプロセスを説明できる。	知識 技術 態度	・講義
2 各プロセスと個別援助計画との関係を説明できる。	知識 技術 態度	・講義・演習
3 サービス利用者、介護者の意向に沿ったプランの作成ができる。	知識 技術 態度	・講義・演習
4 自立志向、家族の負担の軽減、家族の役割を説明できる。	知識 技術 態度	・講義・演習
5 サービス資源の活用は適正かどうか説明できる。	知識 技術 態度	・講義・演習
6 サービス調整、連携が必要に応じてできる。	知識 技術 態度	・講義・演習
7 モニタリングが定期的に必要時タイムリーに行うことができる。	知識 技術 態度	・講義・演習
8 居宅支援のケアマネジメントプロセスを検証することができる。	知識 技術 態度	・講義・演習
9 困難事例の対応に事例検討・研究が必要なことが説明できる。	知識 技術 態度	・講義
10 事例検討で「自立支援の視点」「利用者主体(本位)」「尊厳の保持」の視点で振り返りができる。	知識 技術 態度	・講義

## ⑦ 伝達内容

・本課目で定める具体的習得目標を伝達する際の指導内容、解説を以下に示す。

指導内容	解説(読み解き)	教材・レジュメ 事例の作成・選択指針
1 自立支援、利用者本位の理念に基づく居宅サービス計画作成のプロセスの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の自立支援、利用者本位とは何かを学ぶ。</li> <li>・ケアマネジメントプロセスに沿った計画作成が自立支援につながることを説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>
2 各プロセスと個別援助計画との関係の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別援助計画(直接ケアを実施する専門職アセスメントによる)は、ケアプランの内容に沿って専門職によるケア内容を具体化したものであることを説明できる。</li> <li>・利用者の自律に向けた目標の共有</li> <li>・専門職との状態の変化等の情報共有の重要性</li> <li>・専門職の意見や評価をケアプランに反映</li> <li>・タイムリーなモニタリングによる必要に応じたプランの変更</li> <li>・ケアプランの個別援助計画の連動性について説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>
3 サービス利用者、介護者の意向に沿った計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な情報提供の方法</li> <li>・利用者家族の同意の必要性</li> <li>・ニーズ理解の重要性</li> <li>・利用者家族の意見や苦情の受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>
4 自立志向、家族の負担の軽減の視点の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅生活の継続性</li> <li>・要介護度、日常生活自立度、認知度の変化、QOLの向上の視点</li> <li>・生活の安心、安全の確保の視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>
5 適正なサービス資源の活用の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抱え込み防止</li> <li>・介護保険サービス以外のサービスの位置づけ</li> <li>・インフォーマルサービスの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>

指導内容	解説(読み解き)	教材・レジュメ 事例の作成・選択指針
<p><b>6</b> 適切なサービス調整、連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のケアチームとの連携</li> <li>・地域資源の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>
<p><b>7</b> 定期的なモニタリングの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプランの実践後、利用者の症状・気分の変化や家族に変化を敏感にキャッチし、事業者と連携し再アセスメントできる。</li> <li>・利用者・家族の変化に応じ再アセスメントしケアプランの修正ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> <li>・簡単な例示</li> </ul>
<p><b>8</b> 居宅支援のケアマネジメントプロセスの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントプロセスに沿って確認</li> <li>・アセスメントの領域の偏り</li> <li>・解決すべき課題の絞りこみと確定、優先順位</li> <li>・目標の設定の妥当性、実現可能か</li> <li>・提供すべきサービス内容の確認</li> <li>・サービス資源の特徴(費用、量など)、サービスの頻度、週間計画表など利用者に合ったもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>
<p><b>9</b> 困難事例の対応に、事例検討・研究の必要性の説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討と事例研究の意味を理解し、違いを整理する。</li> <li>・事例研究(事例検討会)の方法と進め方</li> <li>・利用者とケアマネジャーの関係を振り返る。</li> <li>・担当事例の読み解きができる。</li> <li>・要介護認定者と介護者のニーズや支援の普遍的課題を学ぶ。</li> <li>・関連領域の知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を理解するための教材</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>
<p><b>10</b> 事例検討で「自立支援の視点」「利用者主体(本位)」「尊厳の保持」の視点での振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者への関わり方を参加者から評価する。</li> <li>・課題からレベルアップに繋げる事を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修記録シート</li> </ul>



## ⑧ 講義等の具体例

・本課目を実施する際の進行の例を以下に示す。

プログラム	時間	具体的方法
1 講義	90分	・事例から学ぶこと
	60分	・事例検討(研究)の方法 まとめ方、検討方法、参加者の義務と責任
2 グループワーク	150分	・演習プログラムと受講者の役割 ・ファシリテーターの役割
3 振り返りと講義	30分	・学習の振り返りと相互評価
	30分	・要点の確認講義

## ⑨ 評価

- ・本課目を実施する際の評価のポイントを以下に示す。

### 評価ポイント

- ・利用者・家族の解決すべき課題(ニーズ)を具体的に明らかにできているか検証する。
- ・介護支援専門員がどのように対応したのか、対応の基本的視点、支援経過、支援結果反省点を分析する。
- ・ケアマネジメントの個別実践から理論のケアマネジメントの原理や原則を導き出すことができる。

評価の区分	評価方法
1 受講者の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の前に研修記録シート2により自己評価をする。</li> <li>・講義終了後、研修記録シートを記入する。</li> <li>・今後の業務における自己課題を明確にする。</li> </ul>
2 受講者の相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入した研修記録シート2を相互にチェックする。</li> <li>・チェック後本人に返却する。</li> </ul>
3 講師の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の理解が不十分な部分を再度講義する。</li> <li>・受講者の一部の研修記録シート2を講師が目を通し、研修で改善すべき点を把握する。</li> </ul>

Ⅱ-5

「居宅介護支援」演習

演習6.0時間

### ① 目的

- ・ 支援困難事例を含む多様なケースを課題分析し居宅サービス計画の作成に習熟する。モニタリング、再アセスメント、居宅サービス計画変更の過程を学ぶ。サービス担当者会議におけるサービス事業者などとの連携方法を学ぶ。

### ② 内容

- ・ 作成した居宅サービス計画を持ち寄り、相互に意見交換をしながら課題分析の方法、居宅サービス計画の作成のポイント、モニタリング、再アセスメント、居宅サービス計画変更のポイントを学ぶ。サービス担当者会議におけるサービス事業者などとの連携方法や適切な記録の手法等を学ぶ。
- ・ 居宅サービス計画と個別サービス計画の関連について事例を通して、相互関係のポイントについて学ぶ。

### ③ 研修体系における本課目の位置づけ

- ・ 介護支援専門員の「居宅介護支援 事例研究」に関しては次のような課目で研修することとなっている。

実務研修	「アセスメント、居宅サービス計画等作成演習」(演習6.0時間)で実習事例をもとにプロセスの理解を深めるための事例検討を行う。
実務従事者基礎研修	「ケアマネジメント点検演習」(演習14.0時間)で各自が担当している事例を持ち寄り、どのようなプロセスを経て計画に位置づけたか等を発表しディスカッションを行う。
専門研修課程Ⅰ	独立した課目なし 「ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方」(講義3.0時間)でプロセスの持つ意味と重要性について実際の事例を用いて講義
専門研修課程Ⅱ	「居宅介護支援 演習」(演習6.0時間)
主任介護支援専門員研修	「事例研究及び事例指導方法」(講義5.0時間、演習18.0時間)で単に事例研究だけでなく、指導や説明ができる技能を会得する。

#### ④ 到達目標

- ・本課目を講義した際に到達する目標を以下に示す。

##### 到達目標

- ・事例検討を通して利用者本位のケアマネジメントができる。
- ・事例提供をすることでスーパーバイザーの立場を体験をする。
- ・提出事例の解決策や解決への道筋を体感する。

## ⑤ 指導の視点

- ・本課目の講義を行う際の、指導の視点を以下に示す。

### 総括

- ・持ち寄り事例の検討を通して、ケアマネジメントプロセスと計画変更のポイントに気づけることをねらいとした指導とする。また、サービス事業者等との連携や、居宅サービス計画と個別サービス計画の関連性等、チームアプローチを視野に入れた指導に配慮する。

能力  
1

### アセスメント能力

- ・着目する情報の種類、その情報を収集の視点、生活に関する意向の理解、目標実現のニーズ等

能力  
3

### カンファレンス・コーディネート能力

- ・ケアプランに位置付けられた各種の関係機関、専門職、支援者との良好な協力、協働関係を形成するための工夫

能力  
2

### プランニング能力

- ・ケアプランに位置付けられている様々な社会資源を活用する際の注意点、留意点等

能力  
4

### モニタリング能力

- ・ケアプランの目標や利用者・家族の状態を把握するために、どんな点に着目するか、そうした変化をキャッチできるのは誰か、また介護支援専門員はどのように協働するか等

## ⑥ 具体的習得目標と方法

・本課題で具体的に習得する目標を11項目挙げ、各項目が該当するスキル（知識・技術・態度）と講義方法を示す。

具体的習得目標	習得分野	伝達方法
1 事例を適切にまとめることができる。	知識 技術 態度	・講義
2 意見交換のポイントを押さえた事例を提示できる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
3 事例に対する他の意見を受け入れられる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
4 事例に対して利用者の視点から意見を述べるができる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
5 課題分析の方法を説明できる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
6 居宅サービス計画の作成ポイントを説明できる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
7 モニタリングのポイントを説明できる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
8 再アセスメントのポイントを説明できる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
9 居宅サービス計画の変更のポイントを理解し、必要な計画変更ができる。	知識 技術 態度	・講義
10 サービス担当者会議におけるサービス事業者等との連携がとれ、適切に記録できる。	知識 技術 態度	・講義
11 居宅サービス計画と個別サービス計画の相互関係のポイントを理解し、効果的なチームアプローチができる。	知識 技術 態度	・講義

## ⑦ 伝達内容

・本課目で定める具体的習得目標を伝達する際の指導内容、解説を以下に示す。

指導内容	解説(読み解き)	教材・レジュメ 事例の作成・選択指針
1 事例の適切なまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援、利用者本位の観点から作成された居宅サービス計画書を取り上げ、介護支援専門員がどのように対応したのか確認し分析する。</li> <li>・事例の作り方、事例検討の流れ、ルールを明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメ</li> <li>・持ち寄り事例</li> <li>・研修記録シート</li> </ul>
2 意見交換のポイントをおさえた事例の提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験の中で積み上げた知識や技術、価値観、倫理観をもとに事例検討を深め、研修に参加した者同士でケアマネジメントの視野を広げる。</li> <li>・自身の実践の振り返りから「気づき」を得る。</li> <li>・発想の枠を広げ、読み解くためのキーワードや方法について講義する。</li> <li>・事例検討会への参加姿勢、グループ発表やコメント、まとめの方法を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメ</li> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>
3 事例に対する他の意見の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ事例に対する様々な捉え方を比較する。</li> <li>・グループ検討前後の捉え方を比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメ</li> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>
4 利用者の視点からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントの意味を学び、利用者の自立支援とは何か理解する。</li> <li>・アドボカシー、権利擁護、身体拘束廃止、環境の変化による影響等について講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメ</li> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>
5 課題分析の方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抱え込み防止について講義する。</li> <li>・介護保険サービス以外のサービスの位置づけを講義する。</li> <li>・インフォーマルサービスの活用方法を講義する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>

指導内容	解説(読み解き)	教材・レジュメ 事例の作成・選択指針
6 居宅サービス計画の作成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的なアセスメントの手法、各職種間の連携手法、チームアプローチによる計画の組み立て方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>
7 モニタリングのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃実践しているモニタリングの方法を確認する。</li> <li>・事例に応じたモニタリングの視点と方法について学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>
8 再アセスメントのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング結果を活かし、対応内容、基本的視点、支援経過、反省点を分析する際の視点を理解する、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>
9 居宅サービス計画の必要に応じた計画変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なタイミングによる効果的な計画変更を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>
10 サービス担当者会議における連携や適切な記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の社会資源を把握し、連携方法を学ぶ。</li> <li>・各職種の専門性を理解し、連携することでチームの力の引き出し方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>
11 居宅サービス計画と個別サービス計画の相互関係の理解と効果的なチームアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅サービス計画とサービス事業者等の個別援助計画との関連を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄り事例</li> </ul>



## ⑧ 講義等の具体例

・本課目を実施する際の進行の例を以下に示す。

プログラム	時間	方法
1 グループメンバーの役割確認	10分	
2 事例の共通理解	20分	・「その人らしさ」の共有
3 検討テーマの絞り込み	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討テーマのすり合わせ</li> <li>・事例提供者から、検討してほしいテーマ(具体的)を提示</li> <li>・事例提供者が支援申込票に記載してきた「求めたい支援」「検討すべきテーマ」について理由などを説明する。</li> <li>・「検討すべきテーマ」について意見を述べる。</li> <li>・検討テーマの絞り込み</li> <li>・一致点 優先順位</li> </ul>
4 事例検討会討論演習	40分	・絞り込んだテーマについて討論
5 検討テーマについてのまとめと事例提供者へのフィードバック	20分	
6 振り返り	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割はどうだったか</li> <li>・講師からもコメントする                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①事例提供者の振り返り 資料内容・～さんらしさ・検討テーマ・QAの答え方</li> <li>②司会者 ③書記 ④参加者</li> </ul> </li> <li>・3の「検討テーマの絞り込み」について意見交換、講師もコメント</li> <li>・事例提供者の資料のまとめ方について意見交換、講師もコメント</li> <li>・今回の演習が担当介護支援専門員のスキルアップや利用者の自立支援につながるか、次への方向性が確認されたか、主任の役割が適切に果たせるか等について意見交換</li> <li>・講師総括コメント</li> </ul>

## ⑨ 評価

・本課目を実施する際の評価のポイントを以下に示す。

### 評価ポイント

- ・事例を読み解く知識・視点を理解し、事例検討会の中に生かすこと
- ・事例検討会へ参加姿勢(課題の提出、検討会への参加状況、意見や発表の機会)
- ・自らの実践を振り返る視点
  - ①自らの実践の「足りないところ」を気づく
  - ②自らの実践の「できているところ」に気づく
  - ③自らが新たな発想や実践方法につなげられる。

評価の区分	評価方法
1 受講者の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の前に研修記録シート2により自己評価をする。</li> <li>・講義終了後、研修記録シートを記入する。</li> <li>・今後の業務における自己課題を明確にする。</li> </ul>
2 受講者の相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入した研修記録シート2を相互にチェックする。</li> <li>・チェック後本人に返却する。</li> </ul>
3 講師の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の理解が不十分な部分を再度講義する。</li> <li>・受講者の一部の研修記録シート2を講師が目を通し、研修で改善すべき点を把握する。</li> </ul>

Ⅱ-6

「施設介護支援」事例研究

講義6.0時間

### ① 目的

- ・ 自立支援、利用者本位の観点に基づく施設サービス計画作成の視点・方法を学ぶ。

### ② 内容

- ・ 施設サービス計画のポイント、施設介護における日常的な介護と計画との関連等全体の流れを理解する。
- ・ 自立支援、利用者本位の観点から作成された施設サービス計画の事例を取り上げ、それらがどのようなプロセスを経て作成されたのか、具体的なアセスメントの手法、各職種間、サービス提供者との連携手法、チームアプローチによる計画の組み方を学ぶ。

### ③ 研修体系における本課目の位置づけ

利用者の状況に応じて適切にチームケアを機能させることができるようになることを目標として位置づけられている。

- ・ 施設介護支援に関しては、専門研修課程Ⅱ以外では取り上げられていない。連携においては専門研修課程Ⅰ-15「介護保険施設・認知症対応型共同生活介護・特定施設入居者生活介護」で各サービス計画を策定する際の留意点で触れられている。

実務研修	独立した課目なし
実務従事者 基礎研修	独立した課目なし
専門研修 課程Ⅰ	独立した課目なし
専門研修 課程Ⅱ	「施設介護支援 事例研究」(講義6.0時間)
主任介護支援 専門員研修	独立した課目なし

#### ④ 到達目標

- ・本課目を講義した際に到達する目標を以下に示す。

##### 到達目標

- ・施設介護支援専門員の役割を明確に理解する。
- ・利用者の自立支援・利用者本位を目標とした施設サービス計画が作成できるようになる。
- ・地域との連携を意識した施設サービス計画が作成できる。
- ・各職種間の連携方法を学び、チームアプローチで計画が作成できる。

## ⑤ 指導の視点

- ・本課目の講義を行う際の、指導の視点を以下に示す。

### 総括

- ・施設サービス計画が利用者の状況に基づき、具体的なアセスメントの手法が適切か確認する。
- ・各職種間で共通目標に基づき適切に連携できているか、検証できる。

#### 能力1 アセスメント能力

- ・利用者のできないところだけに注目していないか、本人の潜在的な能力を引き出しているか確認する。
- ・利用者の自立支援の観点から、本人の持っている能力をアセスメントできたか検証する。
- ・暮らしの継続の観点を把握できているか検証する。

#### 能力3 カンファレンス・コーディネート能力

- ・サービス担当者会議に利用者・家族を含めて参加して検討できる。
- ・施設において提供される各職種間のサービスの調整ができる。

#### 能力2 プランニング能力

- ・施設における各職種の専門性を生かしたチームケアの施設サービス計画が作成できたか検証する。
- ・施設サービス計画と各部門の個別援助計画との関係性を説明できる。

#### 能力4 モニタリング能力

- ・日々の記録などを用いて利用者の状態の変化を把握できる。
- ・施設において、自立支援の観点から利用者本人の能力を生かした生活ができる。
- ・利用者の意向に沿ったサービスが提供できているか検証する。

## ⑥ 具体的習得目標と方法

・本課目で具体的に習得する目標を10項目挙げ、各項目が該当するスキル(知識・技術・態度)と講義方法を示す。

具体的習得目標	習得分野	伝達方法
1 自立支援、利用者本位の観点を踏まえた施設サービス計画の作成方法を学ぶ。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
2 施設における日常的な介護と施設サービス計画の関連等全体の流れを理解する。	知識 技術 態度	・演習
3 施設サービス計画と介護や栄養など各部門における個別援助計画との違いを理解し、それぞれの関連性を明確にできる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
4 モニタリング、再アセスメント、施設サービス変更の過程を学ぶ。	知識 技術 態度	・演習
5 利用者の思いや家族の思いを表現できる。	知識 技術 態度	・演習
6 入所、退所時に居宅介護支援専門員と連携及び情報を共有できる。	知識 技術 態度	・演習
7 施設における職種間の連携方法とチームアプローチで計画を作成できる。	知識 技術 態度	・演習
8 施設外の資源の活用と連携方法を学び、施設サービス計画に導入できる。	知識 技術 態度	・演習
9 利用者本位を達成するためにアドボカシー機能や身体拘束廃止について説明できる。	知識 技術 態度	・演習
10 在宅復帰を目指す視点を常に持つ。	知識 技術 態度	・演習

## ⑦ 伝達内容

・本課目で定める具体的習得目標を伝達する際の指導内容、解説を以下に示す。

指導内容	解説(読み解き)	教材・レジュメ 事例の作成・選択指針
1 自立支援、利用者本位の観点を踏まえた施設サービス計画の作成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設における利用者の自立支援、利用者本位とは何かを学ぶ。</li> <li>自立支援の観点から本人の持っている能力をアセスメントできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> </ul>
2 施設における日常的な介護と施設サービス計画の関連性	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設におけるケアマネジメントとは何か理解する。</li> <li>施設介護における日常的な介護と計画との関連等全体の流れを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> </ul>
3 施設サービス計画と各部門における個別援助計画との違いとそれぞれの関連性	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設サービス計画と介護や栄養など各部門における個別援助計画との関連を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> <li>モデル事例</li> </ul>
4 モニタリング、再アセスメント、施設サービス変更。	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要なときに利用者の状態をモニタリングでき、必要に応じて施設サービス計画を変更できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> <li>モデル事例</li> </ul>
5 利用者及び家族の意向の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の思いや家族の思いを把握できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> </ul>
6 入所、退所時に居宅介護支援専門員と連携及び情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所、退所時に居宅介護支援専門員と連携することができ、在宅生活ができるように情報を共有できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> </ul>
7 施設における職種間の連携方法とチームアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>職種間の連携方法を学びチームアプローチで施設サービス計画を作成できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> </ul>
8 施設外の資源の活用と連携方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設外の社会資源の活用と連携方法を学び、施設サービス計画に導入できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> </ul>
9 アドボカシー機能や身体拘束廃止	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の尊厳を守るために、アドボカシー機能や身体拘束廃止を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> </ul>
10 在宅復帰を目指す視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅復帰を目指す視点を常に持ち、可能性を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ</li> </ul>

## ⑧ 講義等の具体例

・本課目を評価する際の区分とその方法を以下に示す。

評価の区分	時間	具体的方法
1 オリエンテーション 事前チェック	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修記録シートの確認</li> <li>・本講義の目標を明確に説明</li> <li>・事例研究の方法の講義</li> </ul>
2 講義	60分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル事例を用いて施設サービス計画の作成の視点・方法の演習</li> </ul>
3 グループワーク	240分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援、利用者本位の確認</li> </ul>
4 振り返り まとめの講義	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修記録シートの記入と相互評価</li> <li>・要点の確認</li> </ul>



## ⑨ 評価

- ・本課目の評価を以下に示す。

### 評価ポイント

- ・介護保険施設において自立支援、利用者本位を目標とした施設サービス計画が立てられるようになる。
- ・介護保険施設の特性を理解して、適切な施設サービスが提供できるように検討できる。
- ・在宅復帰を意識した施設サービス計画が作成できる。

評価の区分	評価方法
1 受講者の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の前に研修記録シート2により自己評価をする。</li> <li>・講義終了後に、自分の実践を振り返って研修記録シート2を記入する。</li> <li>・今後の業務における自己課題を明確にして持ち帰り、職場や地域でスーパーバイズを受ける。</li> </ul>
2 受講者の相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修記録シート2を受講者が相互にチェックする。</li> </ul>
3 講師の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の理解が不十分なところを再度講義する。</li> <li>・受講者の一部の研修記録シート2を講師が目を通し、研修で改善すべき点を把握する。</li> </ul>



Ⅱ-7

「施設介護支援」演習

演習6.0時間

### ① 目的

生活の質の向上及び継続性、在宅復帰の可能性等の施設特有の課題分析と施設サービス計画の作成に習熟する。モニタリング、再アセスメント、施設サービス計画の変更の過程を学ぶ。施設における職種間の連携方法、施設外の資源の活用と連携方法を学ぶ。グループ事例検討の方法を学ぶ。

### ② 内容

作成した施設サービス計画を持ち寄り、相互に意見交換しながら計画作成のポイントを学ぶ。特に施設入所直後の利用者の不安等を軽減する為のアプローチ、アドボカシー機能、切れ目ないチームアプローチによる安定したケア、身体拘束廃止、在宅復帰、地域との連携等について留意する。介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養医療施設にグループに分けて行ってもよい。

### ③ 研修体系における本課目の位置づけ

利用者の状況に応じた施設サービス計画作成に習熟することを目標として位置づけられている。

・専門研修課程Ⅰでは、施設介護支援としては独立した課目は設定されていない。

実務研修	独立した課目なし
実務従事者基礎研修	独立した課目なし
専門研修課程Ⅰ	独立した課目なし
専門研修課程Ⅱ	「施設介護支援 演習」(講義6.0時間)
主任介護支援専門員研修	独立した課目なし

#### ④ 到達目標

- ・本課目を講義した際に到達する目標を以下に示す。

#### 到達目標

- ・介護保険施設において自立支援、利用者本位を目標とした施設サービス計画が立てられるようになる。
- ・介護保険施設の特性を理解し、適切な施設サービスが提供できるように検討できる。

## ⑤ 指導の視点

- ・本課目の講義を行う際の、指導の視点を以下に示す。

### 総括

- ・自分で作成した施設サービス計画を持ち寄り、グループで検討することで自分の陥りやすい傾向に気づけるようにする。

#### 能力1 アセスメント能力

- ・利用者のできないところだけに注目していないか、本人の潜在的な能力を引き出しているか検証する。
- ・利用者の自立支援の観点から、本人の持っている能力をアセスメントできたか検討する。
- ・暮らしの継続の観点を把握できているか検証する。
- ・入所直後の利用者の状態を早期に把握できるか検証する。

#### 能力3 カンファレンス・コーディネート能力

- ・サービス担当者会議で利用者や家族の意向を反映できているか検証する。
- ・サービス担当者会議に利用者・家族を含めて参加して検討できたか検証する。
- ・施設内で多職種協働ができているか検証する。
- ・施設外の社会資源を活用できるよう連携できているか検証する。

#### 能力2 プランニング能力

- ・介護だけでなく、様々な専門職の意見を活かした施設サービス計画になっているか検証する。
- ・施設における多くの職種の専門性を活かしたチームケアの施設サービス計画が作成できたか検証する。
- ・施設サービス計画を在宅復帰を視点として取り入れているか、施設内だけでなく地域の資源を有効に利用しているか検証する。

#### 能力4 モニタリング能力

- ・日々の記録などを用いて利用者の状態の変化を把握できているか検証する。
- ・施設において、自立支援の観点から利用者本人の能力を活かした生活が出来ているか、利用者の意向に沿ったサービスが提供できているか検証する。
- ・施設での生活で、変化するニーズを把握し適切にケアを提供できているか検証する。

## ⑥ 具体的習得目標と方法

・本課目で具体的に習得する目標を10項目挙げ、各項目が該当するスキル(知識・技術・態度)と講義方法を示す。

具体的習得目標	習得分野	伝達方法
1 グループ事例検討の方法と事例を読み解く為の基本的な知識と視点を学ぶ。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
2 利用者の思いや家族の思いを表現できる。	知識 技術 態度	・演習
3 生活の質の向上及び継続性、在宅復帰の可能性等を目的とした施設特有の課題分析ができる。	知識 技術 態度	・講義 ・演習
4 施設における自立支援、利用者本位の観点を踏まえた施設サービス計画の作成について説明できる。	知識 技術 態度	・演習
5 モニタリングのポイントを説明できる。	知識 技術 態度	・演習
6 再アセスメントのポイントを説明できる。	知識 技術 態度	・演習
7 施設における職種間の連携方法を理解し、多職種協働で行うことができる。	知識 技術 態度	・演習
8 施設外の資源の活用と連携方法を学び、施設サービス計画に導入できる。	知識 技術 態度	・演習
9 サービス担当者会議の開催の仕方やチームケアを説明できる。	知識 技術 態度	・演習
10 利用者本位を達成するためにアドボカシー機能や身体拘束廃止について説明できる。	知識 技術 態度	・演習

## ⑦ 伝達内容

・本課目で定める具体的習得目標を伝達する際の指導内容、解説を以下に示す。

指導内容	解説(読み解き)	教材・レジюме 事例の作成・選択指針
1 グループ事例検討の方法と事例を読み解く為の基本的な知識と視点	・グループ事例検討の方法や事例を読みとく為に必要な知識を学ぶ。自立支援・利用者本位を叶えているか確認する。	・研修記録シート2 ・レジюме
2 利用者の思いや家族の思い	・利用者・家族の意向を確認する。 ・新しいところでの生活で利用者が不安にならないような取り組みについて学ぶ。	・レジюме
3 生活の質の向上及び継続性、在宅復帰の可能性等を目的としたアセスメント	・作成された施設サービス計画の事例を取り上げ、具体的なアセスメントの手法を学ぶ。	・持ち寄り事例
4 施設における自立支援、利用者本位の観点を踏まえた施設サービス計画の作成	・施設におけるケアマネジメントとは何か理解する。施設サービス計画と介護や栄養、リハビリなど各部門における個別援助計画との関連を理解する。	・持ち寄り事例
5 モニタリング	・モニタリングのポイント、その結果を再アセスメントに生かす方法を学ぶ。	・持ち寄り事例
6 再アセスメント	・モニタリングの結果をもとに再アセスメントを行う。	・持ち寄り事例
7 施設における職種間の連携方法の理解と多職種協働	・各職種の専門性を理解し、連携することでチームの力を引き出すことができる。	・持ち寄り事例
8 施設外の資源の活用と連携方法	・地域の社会資源を把握し、連携していく方法を学ぶ。	・持ち寄り事例
9 サービス担当者会議の開催の仕方やチームケア	・サービス担当者会議やケースカンファレンスの開催方法を学ぶ。	・持ち寄り事例
10 利用者本位を達成するためにアドボカシー機能や身体拘束廃止	・アドボカシー機能や身体拘束廃止について学ぶ。	・レジюме

## ⑧ 講義等の具体例

・本課目を実施する際の進行の例を以下に示す。

プログラム	時間	具体的方法
1 講義	45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修記録シートによる自己評価</li> <li>・施設における自立支援、利用者本位の確認</li> </ul>
2 グループワーク	270分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の持ち寄り事例の検討</li> </ul>
3 振り返り	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修記録シートの相互評価</li> </ul>
4 講義	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点の確認講義</li> </ul>



## ⑨ 評価

- ・本課目を評価の方法とポイントを以下に示す。

### 評価ポイント

- ・施設サービス計画が利用者の状況に基づき、具体的なアセスメントの手法が適切か確認する。
- ・各職種間で共通目標に基づき適切に連携できているか検証できる。

評価の区分	評価方法
1 受講者の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の前に研修記録シート2により自己評価をする。</li> <li>・講義終了後に、自分の実践を振り返って研修記録シートを記入する。</li> </ul>
2 受講者の相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習においては受講者が相互評価する。</li> </ul>
3 講師の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートによる評価</li> <li>・受講者の一部の研修記録シート2を講師が目を通し、研修で改善すべき点を把握する。</li> </ul>
4 ファシリテーターによる評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の質問など、演習中の評価</li> </ul>

